

第五章 電子メール

1 インターネットへの接続方法と電子メールソフトの種類

電子メールの普及の波は留まるところを知らず、いずれは電話番号と同じようになる勢いです。日本では携帯電話と iMode の人気とも相まって電子メールが急速に普及しています。日本国外での日本語の電子メールのやり取りは技術的な問題が整理されず苦労した時期がしばらくありましたが、今はもうそのようなことはなくなりました。さらに、前述の Windows 2000 と Mac OS9 によって日本語電子メールは国内外に関係なくどこでもできるようになるはずで

現在の電子メールの形態は Outlook Express やユードラなどのいわゆる電子メール用のソフトを使ったものと、ウェブメールと呼ばれる WWW のブラウザだけを使ったものに大別されます。

まず、電子メールがどのようになっているかを三人の人のケースを例にとって考えてみましょう。田中先生のメールアドレスは tanaka@w-university.ac.jp で、研究室は大学のネットワークにつながっています。田中先生は Outlook Express を使っています。一方、鈴木さんのアドレスは suzuki@homenet.co.jp で、自宅のコンピュータからモデムと電話回線を使ってメールの交換をしています。ユードラを使っています。最後は、小川さんです。小川さんは自分がいつも使える特定のコンピュータを持っていません。ですから、どんなコンピュータからでも WWW ブラウザでメールがチェックできるウェブメールを使っています。アドレスは ogawa@webmail.co.jp です。

図 5.1

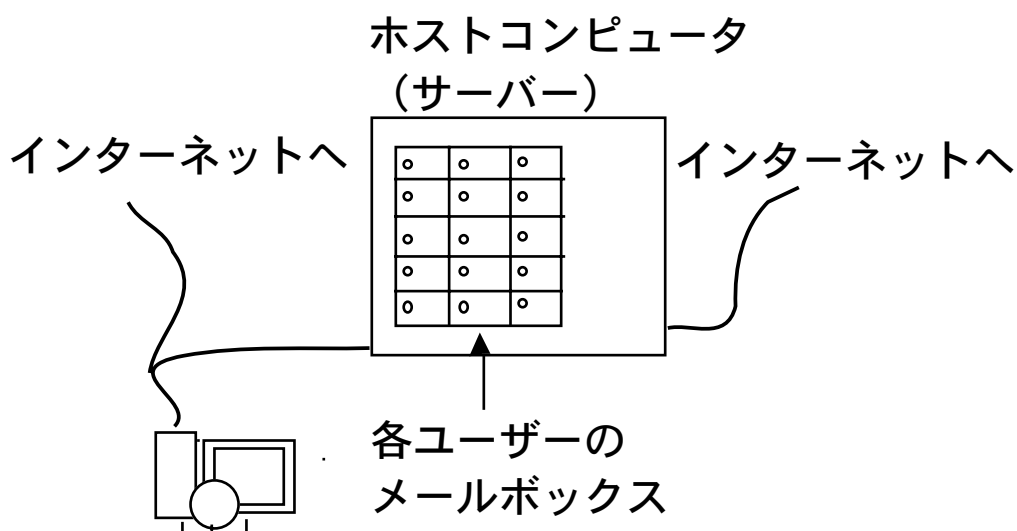


図 5.2

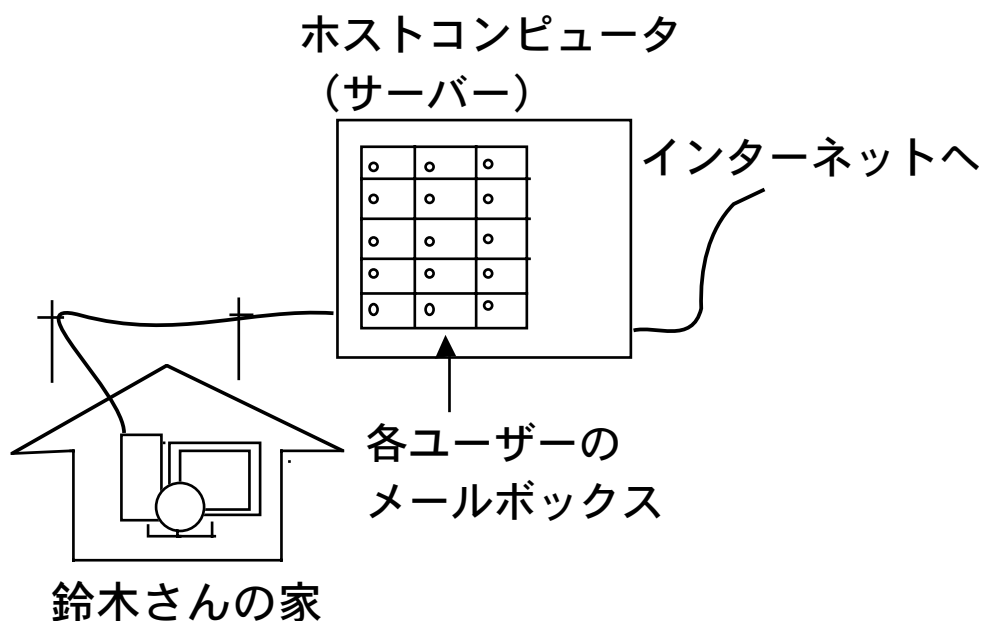


図 5.1 は田中先生、図 5.2 は鈴木さんの環境を表しています。電子メールの交換にはインターネットに接続されているサーバーが必要です。田中先生のサーバーは大学が所有しているコンピュータです。鈴木さんのサーバーは鈴木さんが契約しているインターネット接続サービス会社 (ISP) が所有しています。インターネット接続サービス業には大小多くの会社が参入していますが、その最も基本的な機能は契約ユーザーをインターネットへ接続させるサービスを提供することです。(個人用ホームページのためのスペースなどはおまけです。)そして、サーバーのハードディスク上に各ユーザー用のスペースを確保します。そのスペースの一つの使い方が電子メールです。この意味では大学も ISP として機能していると言えます。田中先生と鈴木さんの環境はインターネットへの接続方法以外は同じです。

ISP や大学が所有している電子メール用のサーバーは私書箱をたくさん持っている大きな郵便局の様なもの。各ユーザーのログオン (Logon) が私書箱の番号でパスワードがその鍵だと考えて下さい。インターネットを通過して送られてくるメールはそれぞれの私書箱の中に一端保管されます。ユーザーがメールソフトを使ってメールのチェックを要求するとサーバーはログオンとパスワードを確認したうえで私書箱に保管されているメールをユーザーのコンピュータに転送 (ダウンロード) します。このような機能を持っているメールサーバは POP サーバー (ポップと発音する) と呼ばれ、OutLook Express やユードラのようなソフトを POP クライアントと呼びます。このようなソフトでのメールのチェックは世界中どこからでもインターネットに接続さえすれば、可能ですが、メールがダウンロードされるので自分用のコンピュータが必要になります。¹⁾

¹⁾ POP のかわりに IMAP というサーバーも使われるようになってきています。IMAP をサーバー上のメールを直接チェックできるので、自分のコンピュータを持たない人や職場と家庭で別のコンピュータを使っている人にとっても便利です。

ユーザーは受信メールを読み、それに対する返事や新しいメールを書いたりした後で、メールを送信します。この時、メールの送信に使われるサーバーを SMTP サーバーと呼びます。これはちょうど郵便を最寄りのポストに投函するようなものです。（ここで POP サーバーが受信メール専用であることを憶えておいてください。）

次に、小川さんが使っているウェブメールではメールはすべてサーバー上に保管され、ユーザーが使っているコンピュータにダウンロードされることはありません。インターネットに接続さえしていれば、どんなコンピュータからでもメールを読んだり送ったりすることができます。もちろん、世界中どこでもかまいません。ですから、特定のコンピュータを持っていない人には好都合です。このようなウェブメールを使うためにはサービスを提供している会社のホームページでユーザー登録をしますが、登録料や使用料はたいてい無料です。ただし、このような会社は広告費で運営されているので、ユーザーが送るメールのなかにスポンサーの広告が自動的に組み込まれたりします。また、自宅などから電話回線を通してインターネットに接続する場合は ISP との契約が別途必要です。

2. 電子メールソフトの設定

アウトルックやユードラなどの電子メールソフトは使い始める時にいくつか必ず設定しなければならない項目がいくつかあります。ここでは田中先生のアドレスを使って説明します。図 5.3 は Outlook のアカウントの設定のページです。

アカウント ID（ログオン ID、ユーザ名）は電子メールアドレスの @マークの前の部分です。POP サーバーは上で説明したように受信専用サーバーのアドレスで、@マークの後の部分がこれにあたります。パスワードはいちいちタイプするのが面倒くさい人は保存することもできますが、必ず覚えておいてください。保存したまま忘れてしまうと、コンピュータが壊れたりソフトが壊れたりするという不具合が起こったときに何もできなくなってしまいます。そして、最後は送信用の SMTP サーバーのアドレスです。これは POP サーバーと同じときもありますし、違うときもあります。

メールソフトの設定には以上の四項目が必要で ISP と契約すると始めに送られてくる書類の中に必ず書いてあります。設定を終えてソフトを使い始めた時に、もし「メールが送れるのに受信できない」という状態が起こったときは、POP サーバーの部分に間違いがあると考えられますし、その逆なら SMTP サーバーの部分に問題があると言えます。間違いは単純にタイプの手違いかもしれません。この程度のトラブルシューティングが自分でできるようになると理想的です。わざと間違った設定をして試してみるというのも理解を助けます。

図 5.3

アカウントの設定 オプション

アカウント名: 田中弘

このアカウントを“すべて送受信”スケジュールに含める

個人情報

名前: Tanaka Hiroshi

メール アドレス: tanaka@w-university.ac.jp

メールの受信

アカウント ID: tanaka

POP サーバー: w-university.ac.jp

パスワードの保存:

ここをクリックして詳細な受信オプションを指定

メールの送信

SMTP サーバー: smtp.w-university.ac.jp

ここをクリックして詳細な送信オプションを指定

キャンセル OK

なお、ウェブメールを利用する場合はユーザ名とパスワード以外は設定する必要はありません。

3. 添付書類 (File attachment)

電子メールソフトにはたいてい添付書類という機能がついています。書類の添付というのは写真や絵のファイルや音声ファイルなど通常のメールメッセージとしては送れない種類のファイルをエンコード（暗号化 encoding）してメールメッセージの中に埋め込んで送る方法のことです。添付書類を使うと基本的にはどんな種類のファイルでも送ることができるので、大変便利です。図 5.4 は「第六章」という書類を添付した時の例です。

図 5.4



添付書類を使うときに、二つほど注意することがあります。一つは添付されるファイルの大きさです。これはたいていホスト（つまり、ISP）によって上限が決められています。ですから、何 MB というような大きなファイルは送れないことがあります。もう一つはファイルを受け取る側が使っているメールソフトが送る側が使ったエンコードを解読 (decoding) できなければならないことです。「添付された書類が読めません」というトラブルはたいていエンコードが送る側と受け取る側で合っていないことに起因しています。現在一番よく使われているエンコードの方法は MIME (Multipurpose Internet Mail Extensions の略でマイムと発音する) と呼ばれています。マッキントッシュでは BinHex や MacBinary と呼ばれるエンコードも使われています。図 5.5 はエンコードの設定をするページの例です。

図 5.5



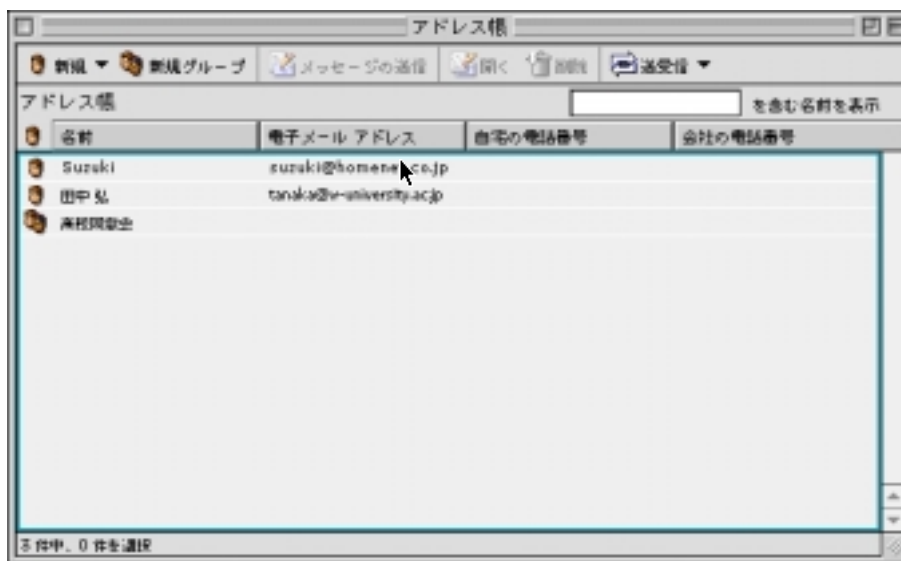
自分が使っているソフトのエンコードの設定と受け取り側が使っているソフトの設定をお互いに確認しておけば、添付書類機能を上手に使うことができます。また、添付書類はエンコードの設定さえ一致していればウィンドウズとマッキントッシュなど機種の違うコンピュータ間でも使えます。

4. アドレス帳の利用

メールソフトにはたいていアドレス帳機能がついていて、メールアドレスに覚えやすい名前を付けて保存管理することができます。また、複数の人をグループとして登録す

ることで一度に同じメールを効率よく送ることができます。

図 5.6



5. メーリングリスト

メーリングリストは同じ興味を共有している人達のアドレスのリストでリスト自体はそのリストを管理しているサーバー上に存在します。ある人がリスト宛てにメールを出すとそのリストに参加している人全員にメールが送られます。返事をしたい人はもとの送り主に直接返事を出すか、またはリストに返事を出します。リストに送られた返事はもちろん参加者全員に配信されます。(メールソフトの「返信」機能は自動的に返信先を入れてくれるので便利ですが、リストから来たメールの返信先はリストのアドレスになるので、個人宛の返信メールを誤ってリストアドレスに送らないように注意してください。) 投稿数が多い活発なリストは参加者に送られてくるメールの数も多くなります。毎日10通、20通メールが来るというリストもあります。

メーリングリストを利用すると最新の情報が入手できたり分野の専門家の意見が聞けたりして効率良く情報収集をすることができます。しかし、メーリングリストに質問をするときは事前にある程度調べて的を絞り込んだ質問をするようにしたほうが返事がもらえる確率が高くなります。例えば、「日本語の読解過程に関する最近の研究の文献をさがしているのですが、教えて下さい。」というのでは質問が漠然としすぎています。また、多くのメーリングリストではアーカイブ (archive) と呼ばれる過去の投稿履歴が保存されていて、その中をキーワード検索ができます。ですから、質問をする前にまず過去の投稿をチェックすれば重複を避けることができます。

日本語教育や外国語教育のためのメーリングリストも増えています。このようなメーリングリストのリストが以下のウェブページで見られます。

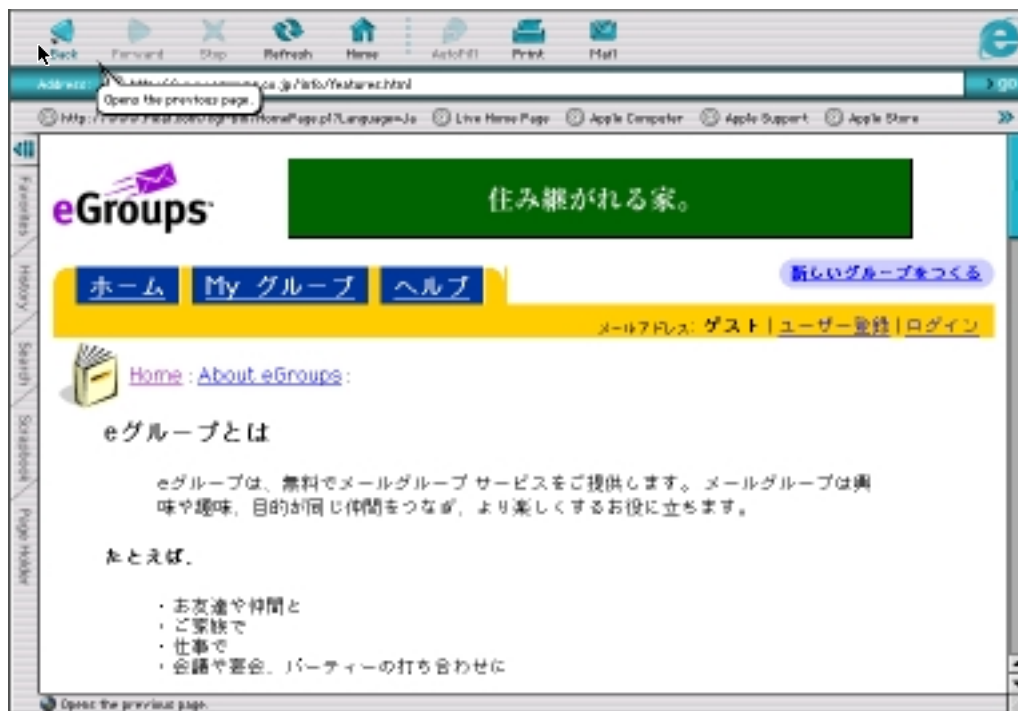
<http://202.245.103.41/resources/link/ML.htm> (国立国語研究所)

babel.uoregon.edu/yamada/lists/japanese.html (米国オレゴン大学)

またメーリングリストを自由に作らせてくれるサービスを提供している WWW ページも

あります。その一つに eGroups とよばれるサービスがあります。(www.egroups.co.jp)このページではメーリングリストを無料で開設させてくれます。広告収入で運営しているのでメールには広告が埋め込まれたりしますが、それ以外はトピックは自由です。日本語教育関連のメーリングリストも50以上あります。

図 5.7



6. 掲示板 (Bulletin Board)

掲示板、または Bulletin Board、はメーリングリストとは違った形の意見交換の場です。掲示板に投稿されたメールはその場に留まり、参加者に送られてくることはありません。従って、参加者は定期的に掲示板を見に行くことでどのような意見の交換があったかを知ることができます。無料メーリングリストと同様、無料で掲示板を作らせてくれる GeoCities (www.geocities.co.jp) のようなウェブページがあります。このようなサービスを利用すると手軽に自分自身の掲示板を始めることができます。また <http://202.245.103.41/keijiban.htm> (国立国語研究所) には日本語教育関係の掲示板のリストがあります。

図 5.8



練習問題

1. (特に、海外在住者) 自分の環境で日本語の電子メールをするために必要な項目を書きだして下さい。
2. 次の用語の意味をよく理解しているか確かめて下さい。POP サーバー、SMTP、ユーザ名、添付書類、MIME、BinHex
3. 書類添付機能を使って表計算ソフトのワークシートやワープロソフトのファイルを友人に送ってください。そして、その友人が正しく受け取れたことを確認してください。違う機種のコピュータを使っている友人がいたら、その友人ともファイルを交換してください。正しくできたら、今度はわざと間違った設定にして添付書類を送り、うまくいかない時には、どうなるか試してください。
4. アドレス帳機能を使って、いくつかのグループを作りメールを送ってください。
5. 興味があるトピックを扱っているメーリングリストをいくつか見つけて、参加してください。
6. メーリングリストは参加した時に確認のメールを送ってきます。その中に参加者が設定できるオプションについての情報が含まれています。(例 nomail, digest など) それらのオプションをどのように使うか学習してください。また、メーリングリストにアーカイブがあるかチェックしてください。ある場合は、アーカイブを検索して過去にどのような内容について情報が交換されていたかを調べてください。